

# 現代ドイツの倫理・道徳教育にみる多様性と連携

——中等教育の宗教科と倫理・哲学科との関係史——

大阪樟蔭女子大学准教授 **瀨谷佳奈** [著]

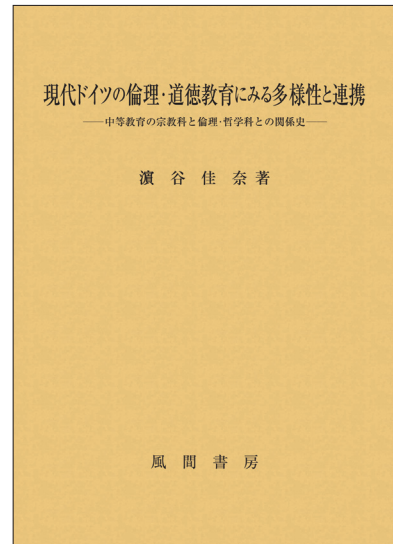
宗教科と倫理・哲学科との関係とその変容を分析し、ドイツの倫理・道徳教育にみられる多様性と連携の構造を解明。世俗性という教育学の規範が抱える複雑な問題を問う。

## 【著者略歴】

瀨谷 佳奈 (はまたに かな)

上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業、上智大学大学院総合人間科学研究科博士前期課程修了、上智大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。学部在学中に1年、博士後期課程在籍中に1年ドイツ・ケルン大学留学。博士(教育学)。現在、大阪樟蔭女子大学児童教育学部准教授。

主な訳書・論文に、『ドイツの道徳教科書—5、6年実践哲学科の価値教育』（監訳、ローラント・ヴォルフガング・ヘンケ編集代表、明石書店、2019年）、『ドイツ：個々への支援を目指す、連邦と州による教育政策』『ドイツ：健康な教員が担うインクルーシブな教育実践』（志水宏吉監修『世界のしんどい学校—東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み—』明石書店、2019年）、『宗教科と倫理科による市民性の育成—バイエルン州の場合』（武藤孝典・新井浅浩編著『ヨーロッパの学校における市民的社会的教育の発展—フランス・ドイツ・イギリス—』東信堂、2007年）。



A5判・上製・328頁 定価(本体 8,500円+税)  
ISBN978-4-7599-2306-3

2020年2月刊・好評発売中

序章	ドイツの倫理・道徳教育への注目 —宗教科と倫理・哲学科との関係史を捉える視角—
第I部	宗教科と倫理・哲学科の法的地位をめぐる相克 —対立から並存へ—
第1章	基本法における宗教科規定と各州の倫理・哲学科規定との関係
第2章	宗教的多元化の中の宗教科と倫理・哲学科 —2000年代以降のベルリンにみる倫理科の必修化—
第II部	宗教科と倫理・哲学科による市民性の育成と倫理・道徳教育の質保証 —カリキュラムの並存から連携へ—
第3章	宗教科による市民性の育成 —1990年代以降のカリキュラムの分析—
第4章	倫理・哲学科による市民性の育成 —1990年代以降のカリキュラムの分析—
第5章	宗教科と倫理・哲学科による倫理・道徳教育の質保証 —コンピテンシー・モデルに基づくカリキュラムへの転換—

## 第III部 授業実践にみる宗教科と倫理・哲学科

第6章	教科書にみる宗教間学習の特徴 —宗教科(カトリック)教科書と実践哲学科教科書との比較—
第7章	生徒の意識にみる宗教科と倫理・哲学科の連携に向けた課題—質問紙調査に基づいて—
第8章	宗教科と倫理・哲学科との教科間連携への模索
結章	宗派的宗教教育と世俗的価値教育との関係性

資料／参考資料・文献  
初出一覧  
人名索引／事項索引

----- (注 文 書) -----

書名 現代ドイツの倫理・道徳教育にみる多様性と連携 ( )冊  
ISBN978-4-7599-2306-3 定価(本体 8,500円+税)

風間書房

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-34  
電話 03-3291-5729  
FAX 03-3291-5757

書店名(番線)

お名前・お届け先住所・電話番号